

2026年2月20日

各 位

会 社 名 株式会社ANAPホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 川合 林太郎  
(コード：3189・東証スタンダード)  
問合せ先 総務部長 里野 信泰  
電話番号 03-5772-2717

**株式会社ANAP ライトニングキャピタル (ANAP ホールディングス子会社) と、  
Blockstream 社とビットコイン L2 技術を活用した RWA (現実資産のトークン化)  
実証実験開始のお知らせ**

当社の100%子会社である株式会社ANAPライトニングキャピタル（本社：東京都港区、代表取締役社長：山本 和弘。以下、当社と総称して「ANAP」）は、ビットコイン及びブロックチェーン技術のグローバルリーダーであるBlockstream USA Corporation Inc.（本社：米国カリフォルニア州、CEO：Adam Back氏。以下「Blockstream社」）と共同で、ビットコインを利用したRWA（Real World Asset, 現実資産のトークン化）に関する実証実験（以下「本実証実験」）を実施することを決定致しましたので、お知らせいたします。

1. 本実証実験の背景

Blockstream社は、ビットコインおよびブロックチェーン技術のグローバルリーダーであり、同社CEOアダム・バック（Adam Back）氏はビットコインのホワイトペーパーの著者サトシ・ナカモトと初期に直接コミュニケーションを取った数少ない人物の一人（※1）として世界的に著名かつ重要な人物です。当社グループは本邦上場企業として第3位のビットコイン保有量（本日現在1,417.0341BTC）を誇る（※2）とともに、ビットコインエコシステムの実装を通して人々の豊かな生活を実現する事を使命としており、2025年12月23日には100%子会社である株式会社ANAPライトニングキャピタルを通じてBlockstream社と日本市場における同社ブランド・技術・プロダクトの推進に関する基本合意書を締結しております（プロジェクトコードネーム：Project ORANGE LEGEND）。

（※1）Adam Back氏の英国高等法院における証言の記録：

<https://bitcoinddefense.org/assets/documents/First-Witness-Statement-of-Dr-AdamBack.pdf?utm>

（※2）<https://bitcointreasuries.net/> が公表するリスト“Top 100 Public Bitcoin Treasury Companies”のデータ（2026年2月19日時点）に基づき、当社にて集計

このたびANAPとBlockstream社は、前述のProject Orange Legendの一環として、Blockstream社が開発したビットコインL2技術（Layer2技術。ビットコインの堅牢なセキュリティを土台にしたオフチェーン拡張技術）である「Liquid Network」上で実物資産を裏付けとするRWAトークンを試験的に発行し、日本における将来の具体的なサービスローンチを前提に、技術、ビジネス、規制面等の視点から調査と検証を行います。

RWA（現実資産のトークン化）は、例えば不動産や有価証券、金(Gold)等の実物資産をブロックチェーン上でデジタル化し小口投資や即時決済を可能にする技術です。その潜在市場規模は極めて巨大で、2030年までに世界全体で最大約1京円（68兆ドル）に達するとの予測（出典：ポストン コンサルティング グループによる調査レポート）も存在します。日本は2,000兆円超の個人金融資産や膨大な不動産市場を抱えることから世界有数の「RWA大国」候補であり、2026年中に国内の関連市場が1兆円を突破するとの予測（※3）が出され、メガバンクも本格参入するなど、既存の金融構造を劇的に変える最注目の領域として注目されています。

極めて高い技術的安定性を有するビットコインを利用したステーブルコイン及びRWAトークン発行の事例は日本ではまだないものの、世界的には多数の事例が存在します。なかでもBlockstream社が提供する「Liquid Network」上でのトークン化実績は4,500億円以上であり、北米や中南米の金融プレーヤーやエルサルバドル政府等で採用され、貸付債権や有価証券等がトークン化されています。

（※3）出典：Prognat社のレポート

## 2. 本実証実験の概要

本実証実験では、日本国内の法制度や市場環境を踏まえ、大要次のような点について調査、検証を行う予定です。

- Liquid Networkを利用したトークン発行と管理体制、周辺ツールの実用性の検証
- 日本の法規制に準拠したトークンモデルの設計
- RWAトークンとライトニングネットワーク間の決済やスワップ等の技術検討
- Liquid Network上のスマートコントラクト言語「Simplicity」の研究と調査、等

## 3. 今後の業績見通しへの影響

現時点におきましては2026年8月期における当社連結業績に与える影響は軽微であると考えていますが、中長期的には企業価値向上に資するものと考えております。今後、当社連結業績に重要な影響を及ぼすことが明らかになった場合には、速やかに開示いたします。

以上